

『エマオの晩餐』 (1601年)

- ²² また仲間の女たちが私たちに驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみました。● ²³ イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。²⁴ それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」²⁵ するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。²⁶ キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」²⁷ それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。²⁸ 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうなお様子であった。²⁹ それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中に入られた。³⁰ 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。³¹ それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなつた。³² そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださいました間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」³³ すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、³⁴ 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。³⁵ 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。ルカ24:13-35

- マコ16, 12-13

デドモと呼ばれる トマス

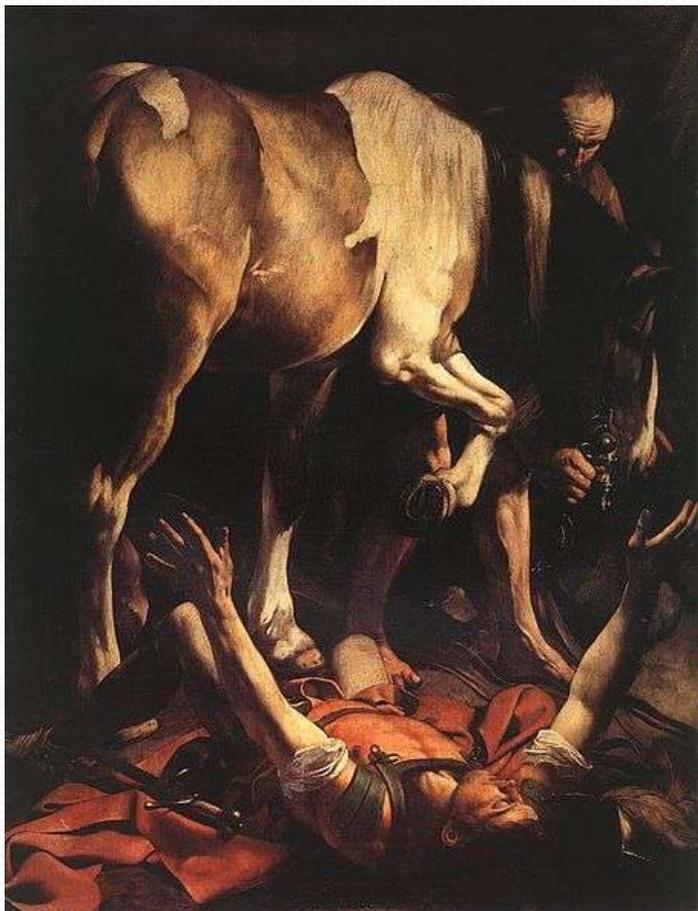
(1601-2年)



- 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。²⁵ それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言った。²⁶ 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。²⁷ それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」²⁸ トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」²⁹ イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」 ヨハ 20:24-29

『ダマスカスへの途 中での回心』

(1601年)



- さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、² ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。³ ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。⁴ 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。⁵ 彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。⁶ 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはずです。」⁷ 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれも見えないので、ものも言えずに立っていた。⁸ サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。⁹ 彼は三日の間、目が見えず、また飲み食いもしなかった。

『ダマスカスへの途中での回心』 (1601年)

- さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた。主が彼に幻の中で、「アナニヤよ」と言われたので、「主よ。ここにおります」と答えた。¹¹すると主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』という街路に行き、サウロというタルソ人をユダの家に尋ねなさい。そこで、彼は祈っていません。¹²彼は、アナニヤという者が入って来て、自分の上に手を置くと、目が再び見えるようになるのを、幻で見たのです。」¹³しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。¹⁴彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」¹⁵しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。¹⁶彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」¹⁷そこでアナニヤは出かけて行って、その家に入り、サウロの上に手を置いてこう言った。「兄弟サウロ。あなたの来る途中、あなたに現れた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」¹⁸するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、¹⁹食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。使徒 9:1-19

- 使徒 22, 5-16
- 使徒 26, 9-18
- ガラ1, 12-17

『キリストの捕縛』

(1602年頃)



- そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユダが現れた。剣や棒を手にした群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司長、律法学者、長老たちから差し向けられたものであった。
 - ⁴⁴ イエスを裏切る者は、彼らと前もって次のような合図を決めておいた。「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえて、しっかりと引いて行くのだ。」
 - ⁴⁵ それで、彼はやって来るとすぐに、イエスに近寄って、「先生」と言って、口づけした。
 - ⁴⁶ すると人々は、イエスに手をかけて捕らえた。
 - ⁴⁷ そのとき、イエスのそばに立っていたひとりが、剣を抜いて大祭司のしもべに打ちかかり、その耳を切り落とした。
 - ⁴⁸ イエスは彼らに向かって言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。」
 - ⁴⁹ わたしは毎日、宮であなたがたといっしょにいて、教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえなかったのです。しかし、こうなったのは聖書のことばが実現するためです。」
 - ⁵⁰ すると、みながイエスを見捨てて、逃げてしまった。
 - ⁵¹ ある青年が、素はだに亜麻布を一枚まとったままで、イエスについて行ったところ、人々は彼を捕らえようとした。
 - ⁵² すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、はだかで逃げた。 マルコ 14:43-52
-
- マタ26, 47-56
 - ルカ22, 47-53
 - ヨハ18, 2-11